

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">~2022</div> <h2 style="margin: 0; padding-left: 10px;">社会福祉学特別研究Ⅱ</h2>	担当教員	単位数	配当学年
	阿部 裕二	8単位	2年
		履修方法(授業形態)	
		SR(演習)	

### ■事前に受講してほしい講義等

社会福祉学特別研究Ⅰ、社会保障演習または社会福祉政策演習

### ■授業のテーマ

研究方法を踏まえた実践的論文作成への道

### ■授業の目的

研究方法の明確化と論文作成能力を高める。

### ■授業の到達目標

- ・研究方法と習得し実践することができる。
- ・先行研究を踏まえた論文の作成ができる。
- ・論文の形式を守り、自分自身の視点を明確にすることができる。
- ・まとめた論文の内容を、第三者に整理して明確に伝えることができる。

### ■授業の概要(内容)

以下の項目を内容とする。なお、指導分野は社会保障の領域、例えば「年金」「医療」「生活保護」などである。

- ①個別研究指導を踏まえて、各自の研究テーマに沿った修士論文の作成を指導する。
- ②論点の絞り込み、関連資料の利用方法、論文の構成など修士論文作成に関して指導する。
- ③面接指導及び通信指導を通じて研究の促進に役立つ指導を行う。

### ■授業の方法

個別指導

### ■授業時間外学修(予習・復習等)

予習：事前に指定した課題について取り組むこと。

復習：指導助言の内容を、その都度、研究及び論文作成に活用すること。

### ■評価の方法・基準(評価割合)

本特別研究への取り組み(10%)及び構想レジュメ・中間レジュメの内容(10%)、論文内容(60%)、最終プレゼンテーション(20%)において評価する。

### ■履修上の注意事項

3回以上の面接指導と2回以上の通信指導を受けること。3回のレジュメ3回のレジュメ(構想レジュメ・第1回中間レジュメ・第2回中間レジュメ)提出が必須。

## ■論文作成の流れとポイント（テーマ・内容等）

	ポイント
1	<b>【論文とレポートの相違の理解】</b> 一般的に講義やテキストの理解度を図ることを目的としているのが「レポート」であり、自分の研究の独創性を論理的・実証的考察によって、読み手を説得させることを目的とする「論文」との相違を理解することが重要である。
2	<b>【ロードマップの作成】</b> 修士論文を提出するまでのロードマップを作成する。その際、事務手続きの概要と照らし合わせながら、いつまでに何をすべきか具体的に考えて作成する必要がある。
3	<b>【研究テーマの設定Ⅰ】</b> 研究レベルのテーマを設定する（「問いをたてる」）ために、かつ、これからの研究・論文作成にあたっての研究倫理について確認する。
4	<b>【研究テーマの設定Ⅱ】</b> 興味・関心をもったことについて文献を検索して講読する。
5	<b>【研究テーマの設定Ⅲ】</b> 文献の講読を基礎として、各自が修士論文において研究として追究したい課題をまとめる。そして絞り込む。
6	<b>【研究テーマの設定Ⅳ】</b> 興味・関心をもった課題及びその他追究したい事項を整理する。自ら立てた「問い」に対して自ら「答え」を書くことを意識して、研究テーマを確定させる。
7	<b>【研究計画の作成】</b> これまでの成果を踏まえて、各自の研究計画を作成する。
8	<b>【論文の流れの作成及び面接指導Ⅰ】</b> 序論・本論・結論を踏まえつつ、論文の全体像（章立て）を考える。同時に指導教員から「修士論文面接指導」を受ける。
9	<b>【構想レジュメの作成と提出】</b> これまでの作業をまとめ、事務局に提出する「構想レジュメ」を作成する（5月中旬に提出）。
10	<b>【通信指導Ⅰ】</b> 構想レジュメの妥当性について、「修士論文通信指導」を受ける。通信指導において修正すべき点があれば研究に反映させる。
11	<b>【先行研究の探求Ⅰ（文献等の収集）】</b> 自ら立てた「問い」に対して先行研究・資料を収集する。その際、文献目録の作成が望ましい。文献は書店のほか、図書館（OPAC）や電子化されたデータベース、レビュー論文などがある。
12	<b>【先行研究の探求Ⅱ（文献等の整理）】</b> 先行研究（文献・資料）は、筆者の主張に対して、①賛意を表す、②反論（疑問を呈する）する、③賛意を示しながら修正を加えることに留意しつつ、整理する。
13	<b>【先行研究の探求Ⅲ（文献等の知見の発展）】</b> 先行研究での整理を踏まえて、自己の「問い」の位置付けを再考する。そして、これまでの研究の知見をどのように修士論文に盛り込み発展させるのかを考える。
14	<b>【研究方法の選定】</b> 「問い」に対しての「答え」を導き出すために、どのような研究方法が良いのかを考え選定する。たとえば、「質問紙調査」「インタビュー調査」「フィールド研究」「行動観察」「実験」「資料・文献分析」などがある。
15	<b>【面接指導Ⅱ】</b> これまでの成果を踏まえ、指導教員から「修士論文面接指導」を受ける。面接内容で修正すべき点があれば研究に反映させる。
16	<b>【研究計画書の再構築Ⅰ】</b> 問題の設定（「問い」の明確化）及び研究方法が選定されたら、研究の道筋を明らかにする「研究計画書」を作成する。
17	<b>【研究計画書の再構築Ⅱ】</b> 作成した研究計画書に基づき、改めて「研究テーマ：研究テーマとして何を取り上げるのか、どのような点を問題にしたいのか」、「研究目的：研究の目的はどこにあるのか、どのような点に独自性があるのか」、「研究構想：どのような方法・手順で進めていくのか、どこまで明らかにするのか」を明確に整理する。
18	<b>【第1回中間レジュメの作成と提出】</b> これまでの到達点を中間レジュメとしてまとめ、事務局に提出する（8月中旬頃）。

	ポイント
19	【研究の推進Ⅰ（フィールドワーク）】 研究方法として、アンケートやインタビューなどのフィールドワークが伴う場合には、それぞれ綿密な準備の上で実施する。
20	【研究の推進Ⅱ（データの整理）】 集めたデータ（資料）を的確に整理する。整理方法はさまざまであり、参考文献を使って自分に合った方法を探すことが肝要である。また、分野別に整頓するということではなく、情報源として使える形に加工することに留意する。
21	【研究の推進Ⅱ（データの分析）】 データ（資料）を情報として加工したものをを用いて、考えをまとめていくが、フィッシュボーン法、KJ法などの古典的な発想整理法や、データベースソフトの思考支援機能を使う方法もあり、個々人において工夫をする。
22	【研究の推進Ⅲ（仮設の設定）】 ある程度データ（資料）の整理ができたなら、それをもとに自分の立てた研究課題に対して、答えをあらかじめ予想し、仮説を立てる。
23	【研究の推進Ⅳ（仮設の証明）】 仮説に対してそれを事実または論理で証明する。定量的な証明が可能な課題であればよいが、そうでない場合は定性的な証明になるので、証明には最新の配慮が必要となる。
24	【研究の推進Ⅴ（結論の考察）】 仮説がどこまで支持され、その結果何が明らかになり、何が示唆されたのかをまとめるのが結論である。
25	【面接指導Ⅲ】 これまでの成果を踏まえ、指導教員から「修士論文面接指導」を受ける。面接内容で修正すべき点があれば研究に反映させる。
26	【第2回中間レジュメの作成と提出】 面接指導にて指摘された諸点を踏まえ、第2回中間レジュメをレジュメを作成して提出する（10月下旬）。
27	【論文を作成する】 これまでの研究の成果を「序論・本論・結論」に従って記述していく。その際、「序論」で自らが提起した問い（問題）に対応した「結論」をきちんと示しているかどうか留意する。また、十分に論じきれなかった点や、今後に残された課題などがあればそれも指摘する。
28	【通信指導Ⅱ】 論文内容について、指導教員から指摘を受ける。指摘された諸点について論文内容の改善に努める。
29	【図表整理、引用・参考文献の作成と確認】 論文中において提示すべき図表を作成添付するとともに、通し番号および出典を明らかにする。また、論文において使用し文中において引用した箇所の確認と、本論文において参考にした文献等を整理して列記する。
30	【論文の推敲と提出】 提出する前提として、推敲を重ねるとともに要約を作成する。全てが完了した後、指導教官からの押印を得て事務局に論文を提出する。

## ■教科書・テキスト

開講時に指示するが、講義中にも適宜文献・資等を紹介する。

## ■参考書・参考資料・参考 URL 等

岩田正美・小林良二・中谷陽明・稲葉昭英編（2006）『社会福祉研究法』有斐閣アルマ  
吉田健正（1997）『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方』ナカニシヤ出版

## ■備考

履修上の注意事項（上記）を再確認すること。

なお、事情によりシラバスの内容の一部が変更になる場合もあります。